

北雲雀丘の荒れ放題の土地を、人と生物のための森に

宝塚市の市街地の東端、川西市との市境の北面に28ヘクタールの広さの「北雲雀きずきの森」があります。荒れ放題だったこの土地の活用を、市民は緑地保全活動をしたい、市は住宅地開発ではない適切な土地利用を進めたいという思いから、市民と行政との協働で進めてきました。北雲雀きずきの森きずな会の方にお話を聴きました。

手つかずで荒れ放題の土地を何とかしたい

長尾山系の東端に位置する広大な北雲雀丘の山地は、古くは、里山として、その後ゴルフ場、レジャー施設として利用されたが、廃業後は放置され、荒れ放題の森になっていた。

コミュニティひばりは、山沿いにある地域であるが、住民が利用できる森は無かった。地域には公園も少なく、市からは公園が無くて山があるだろうと言われたこともあるが、地域住民が活用できる場所にしたいという思いがあった。

市から地域への相談ですべてが始まった

この土地では以前から住宅地開発の計画があったが、学校や道路などのインフラ整備に大きな課題があることから、平成17年(2005年)、市は土地所有者の都市再生機構と土地譲渡に向けて協議を開始し、地元コミュニティに土地利用などについて相談してきた。

コミュニティひばりは、緑地保全のためこの土地を市が取得するよう3,000名の署名を集めて市議会に陳情し、平成18年(2006年)9月に土地取得が議決された。

この土地が民間の開発にかかるインフラ整備が必要になり、地域、市、隣接地に多大な影響が出るという危惧があった。

コミュニティひばりは、まちづくり計画策定を進める中で市とのつながりができた。また、コミュニティ活動への機運が高まり、地域内のつながりができていった。共有したのは「貴重な緑環境の保全と活用」。

市民が利用できる場所にしたいという思いから市と協議し、整備費用は、県の「里山ふれあい森づくり事業」を活用し、市民が主体で、市は住民の支援をする形で進み、平成20年(2008年)4月、事業地として決定された。

平成22年(2010年)5月、北雲雀きずきの森が

正式オープンし、10月には、北雲雀きずきの森きずな会が発足した。

市民参加型のスペースを、市民が整備、維持管理を行う事業として始まった。活動参加は、「できるときに、できること」を共有し、活動内容はきずきの森の管理と保全で、森が市民の健康と憩いの場、学習活動の場となるような種々の活動を行っている。

人と生物にとって心地よい森へ

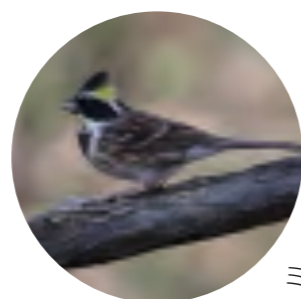
きずきの森と宝塚の市街地とは山で遮られており、車では川西市を通って進入する道しかない。

管理をボランティアでするにしても費用は要ることから、里山事業である程度の道具類は揃え、草刈は市からの委託事業として活動経費を得、実施している。現状の整備活動の原資は様々な官民の助成金を活用している。

きずな会は、できるときにできることをする。一緒に考え、汗を流して行動してきたことで、荒れ放題だった森を、健全な森へ再生してきた。様々な活動にきずな会をはじめ多くのボランティアの取り組みがあって、その労力は驚くべきものだ。

また、この森は小中学校の環境体験学習や福祉事業所の野外活動に活用されている。

コミュニティひばりと北雲雀きずきの森きずな会は、きずきの森の自然を生物多様性の森として将来にわたって保全し、人と生物にとって心地よい森であり続けるための活動を続けている。



ミヤマホオジロ



植生を回復させるために外来種であるハリエンジュを駆除



環境学習会



水はけの悪い遊歩道に木道を設置

